

小松ウオール工業株式会社は、2030年度に向けた温室効果ガス削減目標について、SBTi(the Science Based Targets initiative)の認定を取得しました。



SCIENCE BASED TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

【認定された目標】

- ・ 2030年度までに、スコープ1、2※の排出量を2019年度比50パーセント削減
- ・ 2025年度までに、再生可能エネルギーの年間調達割合を100%に引き上げ
- ・ 2028年度までに、主要なサプライヤーが科学に基づく削減目標を設定するようエンゲージメントを実施

SBTi(the Science Based Targets initiative) は、WWF(世界自然保護基金)、CDP、UNGC(国連グローバルコンパクト)、WRI(世界資源研究所)による共同イニシアティブです。企業に対し、「世界の気温上昇を産業革命前より2℃を十分に下回る水準に抑え、また1.5℃に抑えることを目指すもの」というパリ協定の水準に整合した目標の設定を支援・認定しています。

SBTi ホームページ(英文)

<https://sciencebasedtargets.org/>

当社は、持続的な企業価値の向上と社会課題の解決のため重点的に取り組む事項をマテリアリティとして特定しており、特に環境に対する重要課題には「持続可能な循環型社会の実現」および「製品を通じた気候変動対応への貢献」を掲げています。今後も、温室効果ガス排出量の削減をはじめとする環境負荷の低減に取り組み、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

※ スコープ1:燃料の燃焼等による直接排出

スコープ2:他社から購入した電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出